

# 188 ゲツセマネの園で祈る

マタイによる福音書 26 : 36~46 (マルコ 14 : 32~42、ルカ 22 : 39~46)

.....木曜日の夜 10 時から 11 時頃であろう.....

ニサンの月

第一の月の十四日の夕暮れが主の過越である。同じ月の十五日は主の除酵祭である。(レビ記23:5~8)

⑧聖書記述通りの図表示

十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日
夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼

10日:小羊を一匹用意する(出エジプト12:3)

●14日夕暮れ:小羊を屠り、その血を二本の柱と鴨居に塗る(出エジプト12:6~7)

15日夜:小羊の肉を火で焼き食べる(出エジプト12:8)  
 過越祭:主の過越し(出エジプト12:11、12)

十四日夕方

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

除酵祭:七日の間(十四日夕方から二十一日の夕方まで)  
 酵母を入れないワインを食べる(出エジプト12:15、12:18)

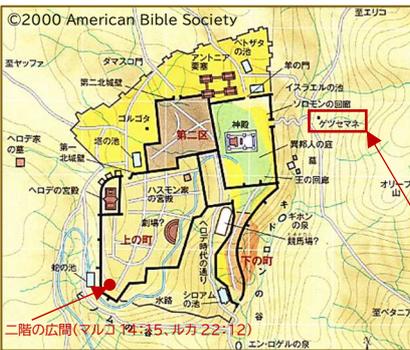
金	土(安息日)	日
夜	昼	夜
夜	昼	夜
夜	昼	夜

緑:過越祭→

最後の晩餐→ ● 除酵祭の第一日、過越の小羊を屠る日(マタイ26:17、マルコ14:12、ルカ22:7、8)

キリストの磔刑→ ●

キリスト復活→ ●



36 それから、イエスは弟子たちと一緒に「ゲツセマネ(の園)」という所に来て、(八人の使徒たちに)

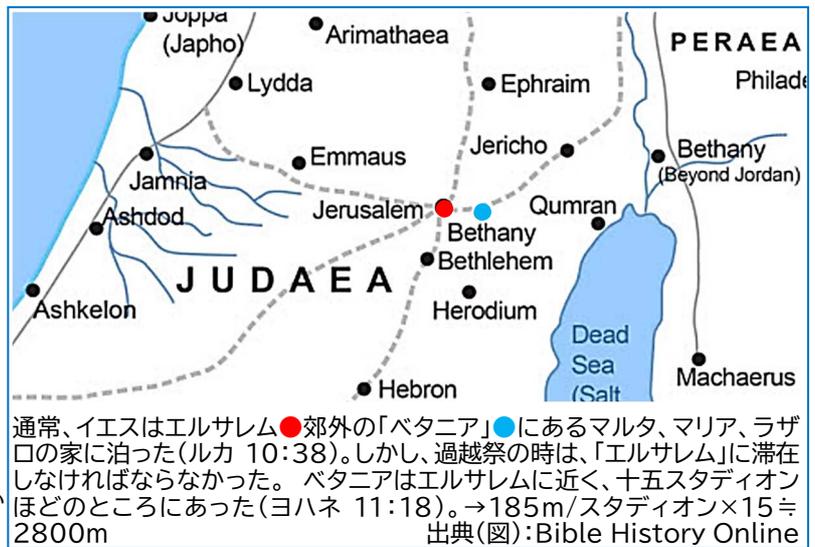
「わたしが向こうへ行行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。

→ゲツセマネ:オリーブの木から油を搾る圧搾機、オリーブの搾り場の意味。オリーブの木から実を収穫し、オリーブ油(聖霊の象徴、神殿灯火用等としてメノラーに用いた)を搾り採る。

→ルカによる福音書 22 : 40

いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑(→真理発見訳:「試み」)→peirasmos ペイラスモス:ギリシア語=信仰のテスト)に陥らないように祈りなさい」と言われた。

→イエスが逮捕された時に、イエスと父なる神への信仰を放棄することがないように、祈りなさい。



通常、イエスはエルサレム●郊外の「バタニア」●にあるマルタ、マリア、ラザロの家泊った(ルカ 10:38)。しかし、過越祭の時は、「エルサレム」に滞在しなければならなかった。バタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほどのところにあった(ヨハネ 11:18)。→185m/スタディオン×15≒2800m  
 出典(図):Bible History Online

## 【参考】オリーブ油

イタリアに代表される、地中海沿岸の食習慣「地中海食」に必須のオリーブオイルは、健康にも良いと言われています。その理由は、含まれる「オイレン酸」は悪玉コレステロール値を下げ、しかし善玉コレステロール値は下げないという働きをしてくれます。そのため、動脈硬化・高血圧・心疾患などの生活習慣病の予防、改善につながります。また、オレイン酸は胃での滞在時間が飽和脂肪酸(乳製品、肉などの動物性脂肪や、近年、我が国において使用量が増えているアブラヤシの果実から得られる植物油のパーム油などの植物油脂に多く含まれる)に比べ短いことで知られています。その分、余計な胃酸を分泌する必要がなくなります。このため胃もたれなど、胃まわりの疾患の予防や改善に効果的です。その他にも、オリーブオイルに含まれる「不飽和脂肪酸」(植物や魚の脂に多く含まれる)は、酸化しにくい特徴を持っており、抗酸化作用の強い「ポリフェノール」を多く含んでいるため、体内で脂肪細胞が増加するのを抑制する働きをしています。

【参考】過越祭 in エルサレム

		聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 11 / 聖句等の総数 33250 ]
K	列王記下	23:23 ヨシヤ王の治世第十八年に、エルサレムでこの主の過越祭が祝われた。
K	歴代誌下	30:1 ヒゼキヤはすべてのイスラエルとユダに使者を遣わし、またエフライムとマナセには書簡を送り、エルサレムの主の神殿に来てイスラエルの神、主のために過越祭を行うように呼びかけた。
K	歴代誌下	30:2 王とエルサレムの高官とすべての会衆は協議し、第二の月に過越祭を行うことに決定した。
K	歴代誌下	30:3 それは、まだ自分を聖別した祭司の数が十分でなく、民もエルサレムに集まっていなかったため、その時に過越祭を行うことができなかったからである。
K	歴代誌下	30:5 彼らはそれを実行に移し、ベエル・シェバからダンに至るまですべてのイスラエルに通知を送り、皆がエルサレムに来て、イスラエルの神、主のために過越祭を行うように呼びかけた。規定どおりにその祭りを行っている者は多くなかったからである。
K	歴代誌下	35:1 ヨシヤはエルサレムにおいて主の過越祭を祝い、第一の月の十四日に過越のいけにえを屠った。
K	歴代誌下	35:18 預言者サムエルの時代以来、イスラエルにおいてこのような過越祭が祝われたことはなく、ヨシヤが祭司、レビ人、そこに居合わせたすべてのユダとイスラエルの人々、およびエルサレムの住民と共に祝ったような過越祭を行った者は、イスラエルの歴代の王の中に一人もいなかった。
S	ルカによる福音書	2:41 さて、両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした。
S	ヨハネによる福音書	2:13 ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。
S	ヨハネによる福音書	2:23 イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。
S	ヨハネによる福音書	11:55 さて、ユダヤ人の過越祭が近づいた。多くの人が身を清めるために、過越祭の前に地方からエルサレムへ上った。

37 ペトロ①およびゼベダイの子二人②③を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ（→文語訳：憂ひ悲しみ出でて）始められた。

→マルコによる福音書 14 : 33

そして、①ペトロ、②ヤコブ、③ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め（→文語訳：甚く驚き、かつ悲しみ出でて）、

→（回復訳）彼はペテロとゼベダイの二人の子をわきへ連れて行かれたが、悲しみ、深く苦悩し始められた。

→N I V : he began to be sorrowful and troubled. / NKJV : He began to be sorrowful and deeply distressed.  
困ったように 動揺した、苦しんだ

→マタイによる福音書 4 : 21

そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。

38 そして、彼ら（→ペトロ、ヤコブ、ヨハネ）に言われた。

「わたしは死ぬばかりに悲しい。（夜も更けてきたが）ここを離れず、わたしと共に目を覚まし（祈っ）ていなさい。」

39 少し進んで行って、うつ伏せ（→地面にひれ伏して：体を折り曲げて頭を地に付けて）になり、祈って言われた。

「(わが) 父よ (→NIV : My Father /NKJV : O My Father)、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」・・・十字架を目前に控えての究極の祈り・・・

→うつ伏せ (俯せ) : 腹を下にして寝ること

→杯 (神との隔離) は、苦しみを分かち合う象徴として用いられる。

→ルカによる福音書 22 : 42~44

「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」[すると、(一人の→An angel) 天使が天から (イエスの前に) 現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。]

### 【参考】血汗症

皮膚から血液が滲み出る非常に稀な疾患で、死の危機などの極度のストレスによって引き起こされることがある。

ストレスランキング10	
1 配偶者 (夫・妻) や恋人の死	82.4
2 親族の死	77.0
3 親しい友人の死	76.1
4 家族の病気、怪我	73.7
5 離婚	72.3
6 配偶者・恋人・子どもの暴力	71.6
7 自分の病気やけが	71.4
8 多忙による心身の過労	71.3
9 失業・リストラ	70.8
10 配偶者や恋人の浮気	69.4

40 それから、弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。

「あなたがたはこのように、わずか一時 (→一時間 : for one hour) もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。

41 誘惑 (→参照 : 36 節) に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」

→イエスは、人間が有限であることを認めている。→①心 (精神) では、キリストに従いたい、②肉体は休息が必要とする。

42 更に、二度目に向こうへ行って祈られた。

「(わが) 父よ (→NIV : My Father /NKJV : O My Father)、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら (→どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら)、あなたの御心が行われますように (→あなたの御心のままになさってください)。」

→ (リビング・バイブル) こうしてまたイエスは、彼らから離れて、祈られました。「父よ。もし、この杯を飲みほさなければならぬのでしたら、どうぞ、あなたのお心のままになさってください。」

→39 節 (父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください) と比較

43 再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠かったのである。

44 そこで、彼らを離れ、また向こうへ行って、三度目も同じ言葉で祈られた。

45 それから、弟子たちのところに戻って来て言われた。

「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。

→NIV/NKJV : Are you still sleeping and resting?

→リビング・バイブル : まだ眠っているのですか。

→「あなたがたはまだ眠っているのか、休んでいるのか」となっている写本もある。

→文語訳およびK J Vは、励ましの言葉になっており、次の聖句「立て、行こう」に続いている。

1. 文語訳：而（しか、しこう）して弟子たちの許に來りて言ひ給ふ『今は眠りて休め。視よ、（わたしを裏切る者が迫って来る）時近づけり、人の子は罪人らの手に付（わた）さるるなり。

2. K J V : Sleep on now, and take your rest: behold, the hour is at hand, and the Son of man is betrayed into the hands of sinners.

### 【参考】イエスが言われた3つの「時が近づいた」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250 <時が近づいた>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 時が近づいた]
S マタイによる福音書	26:18 イエスは言われた。「都のあの人のところに行ってください。『先生が、「わたしの時が近づいた。お宅で弟子たちと一緒に過越の食事をする」と言っています。』」	
S マタイによる福音書	26:45 それから、弟子たちのところに戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。	
S ルカによる福音書	21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、ついて行ってはならない。	

46 立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

→NIV : Rise! Let us go! / NKJV : Rise, let us be going.

### 【参考】杯

「杯」は、神の怒りや裁き（審判）の意味で多くの聖句に登場する。ただし、詩編 116 : 13 では、「杯」は感謝の意味で登場している。

→詩編 11 : 5~6、16 : 5、23 : 5、75 : 9、イザヤ書 51 : 17、22、エレミヤ書 49 : 12、51 : 7、エゼキエル書 23 : 31~34、ハバクク書 2 : 16